

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

実施報告書

HT26037

【保健室の先生(養護教諭)になっちゃおう】



開催日：平成26年7月19日(土)
平成26年7月20日(日)

実施機関：北翔大学 7号棟 724教室
(実施場所)

実施代表者：今野洋子
(所属・職名) (人間福祉学部・教授)

受講生：小学生：7名
中学生：7名
高校生：24名

関連 URL：

【実施内容】

1. 受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

・養護教諭体験(ロールプレイング)を重視したプログラムとし、養護教諭の健康相談活動の科学的根拠を理解できるような内容としました。

・書き込んだり、確認したりできるようなオリジナルテキストを用意し、テキストのイラストはコース別に雰囲気を変え、親しみやすいものにしました。

・ひとりの受講生に、必ず補助学生がひとりつくようにし、受講生が楽しく積極的に参加できるようにしました。

・一つの教室の中で、講義と体験ができるような会場を設営し、ベッドやソファを置いた保健室のような実習場をつくりました。

2. 当日のスケジュール

《ベーシックコース》プログラム

10:00～ 受付開始

10:30～10:40 開会式:挨拶・オリエンテーション・講義「科学研究費の説明」

10:40～10:55 講義「健康相談活動とは」

10:55～11:05 実習 からだのしくみ・バイタルサイン測定

11:05～11:20 実習 ロールプレイング:養護教諭のアセスメント体験

11:20～11:30 閉会式:挨拶・未来博士号授与・記念撮影・アンケート記入

* 19日の講義「科学研究費の説明」は成瀬恵治先生(岡山大学)にお願いしました。



《アドバンスコース》プログラム

12:30～	受付開始
13:00～13:10	開会式・挨拶・科学研究費助成金について・オリエンテーション
13:10～13:25	講義「健康相談活動ってなあに？」
13:25～13:35	参観 実施補助学生のデモンストレーション
13:35～14:00	実習「養護教諭体験」・「モデルロールプレイング」
14:00～14:10	休憩(クッキータイム)
14:10～14:20	実習「スペシャルカードの作成」
14:20～14:40	閉会式:挨拶・未来博士号授与・記念撮影・アンケート記入



3. 実施の様子

①開会式まで

- ・受付に補助学生が待機し、受講者のみなさまを会場までご案内しました。
- ・机の上に、事前に使用するタオルやぬいぐるみ・名札等をセットしました。
- ・会場の入り口で、使用するエプロンを受講生に選んでもらい、席につくようにしました。
- ・まず、危機管理について説明し、避難経路等について説明しました。
- ・プログラム中に撮影した写真を学術振興会や本学のHPの載せることについて説明し、不都合のある方は終了までに申し出ていただくようお願いしました(申し出は1件もありませんでした。)
- ・挨拶の後、資料をもとに科学研究費についての説明をおこないました。
- ・19日の科学研究費の説明は、岡山大学の成瀬恵治先生をお願いいたしました。

②講義・参観・実習

- ・《ベーシックコース》では、補助学生が脳の帽子と内蔵のエプロンを身につけて見せ、小学生にもからの構造がわかりやすいよう工夫しました。
- ・《ベーシックコース》では、オーストラリアで小学生用教材として活用されているカーペットキッド(布製の解剖図)を用意し、自分たちで内蔵を置きながら、楽しく学ぶことができる時間を設けました。
- ・《ベーシックコース》でのバイタルサインの測定実習では、補助学生がていねいに指導しながら、受講生がじょうずに測定できるよう、支援しました。
- ・小学生にとっては難しい脈拍の測定も、みなさま上手にできました。
- ・《アドバンスコース》プログラムでは、実際にどのように健康相談活動をすればよいか、補助学生のデモンストレーションの参観を通し、学びました。デモンストレーション中、「おなかが痛いという訴えの場合は『悲しい気持ち』がひそんでいることが多いのです」「ぬいぐるみを抱くことで、そのぬいぐるみに自分の心を映し、抱かれているような安心感を得られるのです」等、養護教諭の健康相談活動の科学的根拠について示しました。
- ・《アドバンスコース》のクッキータイムでは、受講生は補助学生とともに話し合い、笑顔いっぱいでも過ごしました。
- ・《アドバンスコース》では、保健室に置く、元気がでるような、気持ちがやわらぐようなスペシャルカードを作成しました。受講生も補助学生も、積極的に真剣に取り組み、すてきなカードを作成しました。
- ・両コースとも、オリジナルテキストに記載したアセスメントシートを、もとに、受講生が養護教諭役として、児童生徒役の大学生に対応する養護教諭体験を行いました。実習場を使用して、保健室の中のもの上手に活用しながら活動することができました。
- ・養護教諭体験の後、「〇〇先生は、やさしくひざかけをかけてくれて、とてもよかったです」等、補助学生が受講生の養護教諭役について発表する時間を設けました。どの受講生もやさしくてすてきな養護教諭の先生になれたようです。

③閉会式

- ・修了証書は、ひとりひとりに手渡されました。
- ・記念写真では、それぞれが修了証書を胸に撮影されました。



4. 事務局との協力体制

- ・実施教員と事務局とで準備の段階から連携を取り、それぞれの役割を明確にしたうえで、協力して実施。
- ・事務局には、各書類の取りまとめ、発送、保管、変更修正等の手続き業務、委託費の出納管理、収支報告書の作成、学術振興会との連絡調整、損害保険の契約業務、学内への周知業務、広報活動の協力等、多くのことをしていただきました。

5. 広報活動

- ・小学生向け・中学生向け・高校生向けの校種別にカラーのちらしを作りPRしました。
- ・江別市教育委員会を訪問して協力を依頼し、ご後援をいただき、児童生徒へのちらし配布をした。
- ・札幌市教育委員会からも、ご後援をいただくことができました。
- ・札幌市校長会にご協力いただき、札幌市内各校20枚ずつ、ちらしを配付。
- ・同窓会のニューズレターに本事業の記事を載せてもらいました。
- ・大学教員が学校訪問をする際に、配布をお願いしました。
- ・江別市および札幌市のタウン誌まんまる新聞に、掲載してもらいました。
- ・教育学科のニューズレターに記事を載せてもらいました。

6. 安全配慮

- ・はじめに、災害が起きた場合の留意事項を掲載したプリントを配布し、避難経路について説明。
- ・受講者全員を傷害保険に加入。
- ・実施者・協力者で、事前の打ち合わせの際に安全確認を行い、避難訓練を実施し、当日何が起きても受講生を安全に誘導できるよう徹底。
- ・救急車要請の方法についての確認。

7. 今後の発展性、課題

- ・科研費について、参加者のみなさまの理解が深まり、養護教諭体験を通して楽しく学ぶことができたことが、アンケート結果から捉えられ、本当にうれしく思います。
- ・江別市教育委員会・本学同窓会・本学の教職員のみなさまの本事業に対する理解も回を重ねるごとに深まり、円滑な協力体制となっています。
- ・さらに、今年度は札幌市教育委員会からもご後援をいただき、協力していただきました。
- ・また、札幌市校長会にご協力いただき、札幌市内の全校にちらしを配付することができました。
- ・しかし、昨年度以上に盛んに広報活動を行ったにも関わらず、日曜日の小学生および中学生の参加数が少なかったことは大きな反省点です。より強力な広報活動と工夫が必要だと考えています。
- ・本事業は、とても楽しく有意義なことです。ぜひ、今後も継続して応募したいと考えております。
- ・今年度は日本学術振興会より、成瀬恵治先生と大久保陽子様に見察していただくことができ、大きな励みとなりました。ありがとうございました。

【実施分担者】

佐々木浩子(教育文化学部・教授)
佐藤朱美(教育文化学部・教授)
丸岡里香(教育文化学部・准教授)

【実施協力者】 17 名

【事務担当者】 企画部教育研究支援課 佐藤 仁
企画部教育研究支援課 千広 敦子